

奈良県葛城市

「ICカードを活用した高齢者の健康・生活支援」

実施団体：葛城市、凸版印刷(株)、近鉄ケーブルネットワーク(株)、イオンテール(株)、オムロンヘルスケア(株)、関西大学 等

■ ICカードとタブレットを用いて、健康支援や買い物支援等の高齢者の健康・生活支援サービスが利用可能。

ICカードをタブレットにかざすだけで、複数のサービスを利用できる仕組みを構築。各サービス間で情報連携し、個人に合わせた支援メニューを提供。

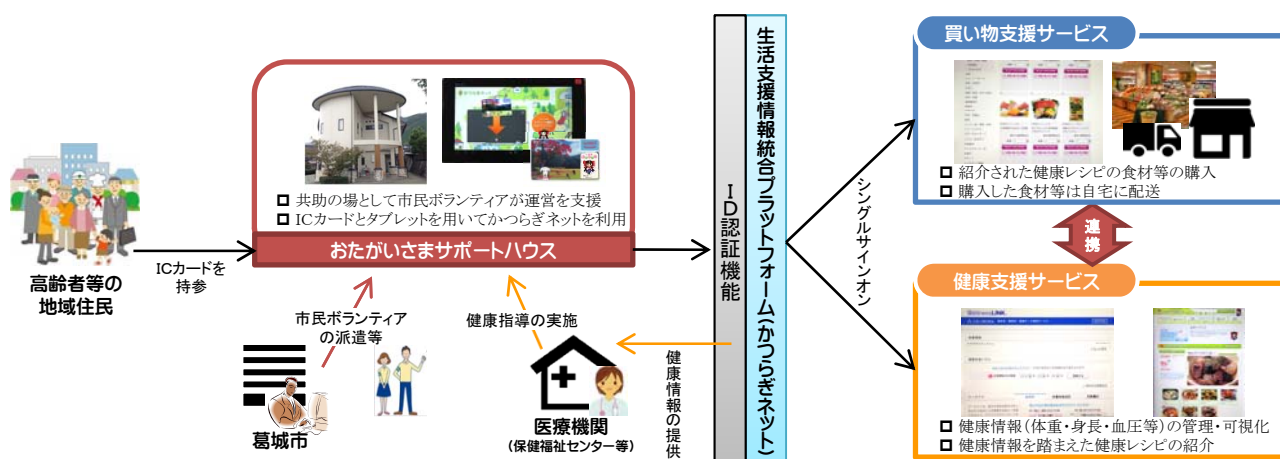
■ 共助の場として「おたがいさまサポートハウス」を開設し、市民ボランティアが運営支援を実施。行政負担を増やすことなく、様々なサービスを提供。

公民館等を活用し、「おたがいさまサポートハウス」を開設。スマートデバイスに不慣れな高齢者に対し、市民ボランティアが対面でサポートしながら、様々なサービスを提供。（延べ753名（うち高齢者738名）が健康支援サービスを利用し、そのうち79名（うち高齢者75名）が買い物支援サービスを利用。）

事業の概要

大阪府のベッドタウンである奈良県葛城市では、子育て世代が増加する一方、団塊の世代を中心とした高齢化の進展、公共交通機関の利便性向上、医療福祉サービスの拡充等、郊外都市特有の課題が急速に顕在化しています。

このような危機意識を行政と住民が共有し、住民が地域の運営に自律的に参加し、地域自治力を飛躍的に向上させることを目指して、ICTを活用した住民参加型の「健康支援サービス」「買い物支援サービス」等の仕組みを構築しました。



<「生活支援情報統合プラットフォーム（かつらぎネット）」の構築>

ICカードとタブレットを用いて、健康支援サービスと買い物支援サービスが簡単に利用可能となる「生活支援情報統合プラットフォーム（かつらぎネット）」を構築しました。

「おたがいさまサポートハウス」に備え付けのタブレット端末にICカードをかざすと自動的に「かつらぎネット」の個人ポータル画面にログインでき、ポータル画面上に表示される各種サービスを利用することが可能です。

➤ 買い物支援サービス

ネットスーパーの商品購入から料金決済に至るまでの一連の手続きが可能です。

➤ 健康支援サービス

高齢者等に活動量計を配布し、定期的に体重・身長・血圧・体脂肪率等のデータを取得し、蓄積したデータに基づく健康指導を受けたり、健康状態に最適な健康レシピの提供を受けたりすることが可能です。

また、買い物支援サービスと連携し、健康レシピの材料を簡単に購入できる仕組みを構築しました。

<おたがいさまサポートハウスの開設>

市内各地区の公民館を活用し、「おたがいさまサポートハウス」を開設しました。施設の運用サポートは市民ボランティアをお願いすることで行政負担を増やすことなく、高齢者の支援や地域コミュニティの活性化を実現しました。

買い物支援サービスや健康支援サービスを対象に、スマートフォンやタブレット端末等に不慣れな高齢者のデータ登録や画面操作の支援を行っています。

今後は、市民ボランティアを有償化して人数を増やし、共助の仕組みがさらにうまく回るようにしていく予定です。



おたがいさまサポートハウスの様子

- 実証事業に対する感想を教えてください -

葛城市では、市の臨時職員が高齢者宅を訪問して様子を伺ったり、買い物の手伝いをしたりする「おたがいさま訪問」という事業を行っていました。高齢者の評判は非常に良かったのですが、人件費が非常に多くかかったため、継続が困難となりました。そこで、発想を変えて、市の臨時職員が訪問する代わりに高齢者に出てきてもらう方法はないかという観点で地域住民の方々と議論を重ねた結果、今回の「おたがいさまサポートハウス」という着想を得ることができました。

葛城市では、もともと高齢者の健康意識が高かったこともあり、健康診断等を受けられる方の大部分が高齢者の方でした。「おたがいさまサポートハウス」は、高齢者の外出を促すとともに市の負担を減らすという、一石二鳥の成果を上げています。

非常に好評だったので、実証事業終了後、新たに一箇所、「おたがいさまサポートハウス」を開設しました。今後も、市内各所に順次オープンしていく予定であり、市の予算化を試みています。



企画部 部長
米井 英規氏

- 成功のポイントを教えてください -

葛城市は山間部が多く、山間部の住民の方からは、交通の便が悪く、買い物が不便という声を良く聞いていました。今回の実証事業の実施にあたり、山間部の住民の方々を中心に、改めて意見を伺ったところ、「買い物を便利にして欲しい」「健康指導をして欲しい」という要望が多くあり、実証事業で解決すべき課題としました。これらの課題は、市が認識している課題とも合致していたこともあり、行政と住民が同じ問題意識を持って、能動的に活動できたことが成功のポイントの一つと考えます。

また、葛城市には団塊の世代が多く居住されており、企業を退職された方と若者とが積極的に協力し合い、世代を超えて市民ボランティアとして活躍いただけたことが、もう一つの成功のポイントです。



Point

- ✓ 行政と住民が同じ問題意識を共有
- ✓ 世代を超えた市民ボランティアの活躍

今後の課題

事業内容について市民の認知度を向上させ、地域サービスとして確立させる

事業拡大に当たって、市民ボランティアの人数が不足している

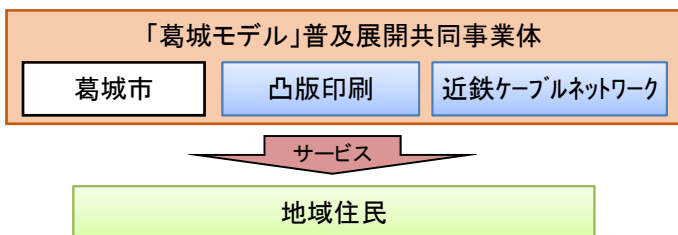
対策・展望

市の予算等を活用し、対象地区を拡大するとともに、市民に周知・広報する

ボランティアの有償化を含め、市民が安心して持続可能な活動を行っていくための環境整備を進める

事業実施体制

葛城市や民間企業等で構成する共同事業体がプラットフォームを運営し、高齢者をはじめとする地域住民に対して各種サービスを提供しています。



導入／運用費用

導入費用 約350万円／自治体

内訳：アプリケーション開発	約 75万円
サーバー等物品購入	約 245万円
その他	約 30万円

運用費用 約332万円／年・自治体

内訳：通信費	約 72万円／年
システム管理費等	約 260万円／年
健康レシピシステムを追加する場合は、別途約230万円／年が必要。	

※ユーザー利用料は発生するコストから算出した概算価格であり、実際のサービス導入にあたっては、別途お問い合わせが必要です。

お問合せ先

奈良県葛城市（人口約3.6万人）は奈良県の中西部に位置し、平成16年に新庄町と當麻町の合併によって誕生しました。万葉集で知られる二上山と葛城山に挟まれ、当麻寺や竹内街道等、古代に遡る史跡が点在しています。

大阪市から鉄道で約30分のベッドタウンとして、近年では住民との共同作業を通じた高齢者支援や子育て支援に力を入れており、「おたがいさまサポートハウス」もその取組の一環です。



奈良県葛城市役所 企画部 企画政策課
〒639-2195 奈良県葛城市柿本166番地 TEL 0745-69-3001



白鳳時代創建の古寺「当麻寺」